



発行所 飯田市松尾公民館
編集人 松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷株式会社

心ひとつに 「全員野球！」 7年ぶりに南信大会出場



毎週土日の早朝から、松尾小学校グラウンドで練習に励んでいる松尾少年野球教室の子供たち。
この春、少年野球喬木大会で優勝し、7年ぶりに学童軟式野球選手権春季大会南信大会に出場した。南信大会でも快進撃は続き、決勝まで進むことができた。決勝では上伊那のチームに惜敗してしまったが、南信大会で1勝できたことが子供たちには大きな自信となった。

現在35人が加入し、練習に励んでいるが、全盛期と比べるとかなり人数が減少している。
保護者会長の大脇章さんは「少しでも野球に興味のある人は、是非体験に来てほしい。一緒に楽しみましよう！」と新たな入会も大歓迎のようだ。

見学・入会希望の人は、松尾公民館までお問い合わせください。



松尾婦人会防災研修会

語り継がれて60年余。実際に経験した人も少なくなつた三六災害。また近年連日のように日本列島を揺るがす群発地震や未曾有の集中豪雨による全国的な大水害。いどこで起きるか分からない自然災害に備えて、松尾婦人会が立ち上がった。

7月24日、飯田市危機管理課、後藤武志課長を講師に招き、公民館和室において「自然災害に備える」研修会を開催した。午前10時から早い時間帯だったが参加者は婦人会会員や一般参加を含めて約20人。90分の講演に熱心に耳を傾けた。

講師の後藤さんは東日本大震災や熊本地震、全国各地の台風被災地などを幅広く視察した経験から、押さえるべきポイントを分かりやすく説明した。特に印象に残つたのはトイレの現実。場所、処理、仕様など普段考えの及ばないことについて。また雨水対策のブルーシートに関して、実用性、耐久性の優れた製品でないに役に立たないなどと、実例をあげての説明に聴講者も身を乗り出して聞き入っていた。

万が一に備えてあなたは楽観派？それとも事前対策派？古来より「備えあれば憂いなし」と言われていま



引越しました。
現在の環境はいかがですか？
とても住みやすいと思います。ご近所の方々にもとても良くして頂いています。また長男は中学生になりましたが学校が近いので有り難いです。

お子さんたちにも聞いてみます。今興味がある事はありますか？
野鳥の観察です。

お二人のご出身はどちらですか？
お二人の出身はどちらも大阪で生まれ、4歳の頃から祖母の家がある飯田市大休で育ちました。
美知子さん 静岡です。

お二人の出会いはい？
東京の音楽関係の専門学校で出会い、付き合いが始まりました。卒業後は一旦それぞれ地元に戻り就職しました。

松尾地区に要望したい事はありますか？
美知子さん 夜間、子どもたちの通学路に街灯が少ない気がするのでもっとあるといいですね。

取材へのご協力、ありがとうございました。

先日ニュースで全国高校サッカー選手権「長野県大会」の抽選会を目にし、応援に熱中していた頃を思い出した▼私には3人の子供がおり、そのうち息子2人が小学生から高校までサッカーを続けてきた。そして、試合の応援に行く事が、私たち夫婦の楽しみであった。カレンダーに書き込んだ予定を見ては「週末には試合があるから、今週末も仕事を頑張ろう」と私たちの活力になっていた▼10数年サッカーを見てきた中で変化してきていることも：3年前に次男が入学した高校では、サッカー部員の人数が年々減少している状況だった▼この学校では「サッカーをやりたい生徒が一人でもいる限り、どんな形でもやらせてあげたい」という顧問の先生の思いで、他校と合同チームで大会に出場していた。といっても部員は少なく、足りない人数で試合に臨むこともあった。それでも諦めることなく、全員で空いてしまうスペースをカバーして戦っている姿が今でも目に焼きついている▼大会に出場する、試合が出来るのが当たり前ではなかったこの子たちにとって、合同チームは最高の場所だったと思う。

松尾の人口

男子	6,116人
女子	6,690人
計	12,806人
世帯数	5,268世帯
8月末現在	

上溝区



ハーバリウムを作ろう

文化事業が上溝集会所で7月10日に開催され、子供8人を含む44人がハーバリ

ウムを作製した。ハーバリウムとは、色とりどりのドライフラワーをガラスの小瓶にオイル漬けしたもので、気軽に楽しめるインテリアフラワーとして人気が高い。講師に寺所区の小畑孝子さんを迎え、一人1点を作製した。まず、瓶に入れる花や装飾品を選ぶのだが、先生が用意した種類がとて

久井区

河川清掃 九十九折井

7月3日「飯田市一斉水辺等美化活動」に合わせ、久井区でも住居近くの清掃を各組合ごとに行った。

その中に八幡山段丘のふもとに沿う用水路を担当する組合がある。川に長靴が入って土砂を取り除いたり、川辺の草を刈り取ったりする作業を小一時間行った。この「九十九折井(つ

づらい)」と呼ばれる小河川は、1678年に毛賀沢を取水口として作られ、およそ360年の歴史がある。天竜川の流れに逆流する微妙な勾配を取り、代田区から久井区に向けて流れるように作られている。前号のまつお新聞でも「羽根庄の門」について触れたが、久井区は歴史的文化財も多い地区である。「続く歴史の一時を担っていると思いつつ、この作業に携わっていきたい」と担当組合の一人は語った。



城区

「城区さまーふえすていばる」開催

7月24日「城区さまーふえすていばる2022」を松尾小学校体育館で開催し、79世帯178人が参加した。コロナ対策として受付時

に検温、マスク着用、手指と器具の消毒を行い、熱中症対策としてミストファンと大型扇風機8台を導入した。昨年の「城リンピック2021」で好評だったスポーツゲームの内容を踏襲し、区長とのじゃんけんに始まり、ポッチャ・射的・バスケット・囲碁ボールを楽しんだ。

それぞれのゲームでは、お菓子や日用品などの景品が用意され、出口が近づく頃には袋いっぱいのお土産となった。福引きコーナー

では特等及び一等の当選本数を昨年比50%増量し、2年連続で特等を引き当てた家族もあった。帰り際に冷えたペットボトルのドリンクを全員に配布し、屋外ではテントの下に水ヨーヨーのコーナーを設置して、子供たちも楽しめる夏祭りの要素も盛り込んだ。

コロナ禍で開催も危惧されたが、クラスターの発生などもなく、子供から大人まで幅広い年齢層の参加があり、楽しい夏の思い出が作られた。

八幡町区



コロナ禍でも昨年に続き大会を開催

7月24日八幡町区のマ

レットゴルフ大会は、飯田市の感染者が徐々に増えて100人を超える日もある状況であったが、分館役員の話し合いにより、昨年度と同様に感染予防対策を十分にとり開催した。事前に参加者に注意事項を周知し、当日も参加者個々の健康管理を確認した。キャンセルもあり参加者は22人となった

が、会場の八幡山マレットゴルフ場は木陰も多く、爽やかな風が吹きぬける中でプレーを楽しむことが出来た。3人1組で各ホールを回り、好プレーも続出して盛り上がり、優勝は昨年に続き伊藤秀夫さんが連覇を達成した。桐生康之助分館長は、「今年も多くの皆さまと楽しむことが出来て良かった」と話した。

毛賀区

やってみりやあもしろい!

7月17日、毛賀区の区民マレットゴルフ大会が新松尾マレットゴルフ場で開催された。

連日の天候不良で開催が心配されたものの前日からの雨も朝には止み、曇り空の下参加者たちが集った。多くが日頃マレットゴルフを愛好する面々だったが、今回は6人の分館役員が加わり全28人で各グループ3、4人の組を作つて、27ホールで競った。普段はマレットゴルフをしな



った。優勝は伊藤護さん、準優勝は昨年の優勝によりハンデが付いたにも関わらず健闘の小木曾文彦さん、3位には塩澤悦子さんが入り、それぞれにトロフィーが贈られた。

常盤台区

常盤台納涼花火大会

7月30日に花火大会が開かれた。常盤台区ではコロナ感染者が徐々に増えていることから、公園に入る際は全員アルコール消毒と検温の感染症対策を実施。参加した子供たち26人には常盤

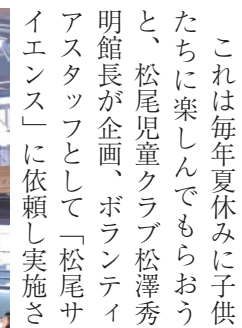


台區から手持ち花火とお菓子が配られた。分館長の挨拶で始まり、子供たちの手持ち花火に火が付くと「わあーきれい」「見て見て」など花火を満喫する声が聞かれた。続けて打ち上げ花火では、役員が毛賀の煙火師軍団「打舞会」5人の指導を受けながら小型煙火と打ち上げ花火、目玉であるナイアガラの花火。打ち上げ花

迫力ある空気砲 煙が輪っかになったよ

8月4日松尾第1第2児童クラブ(96人)、松尾第3児童クラブ(37人)を対象にサイエンスショーと「作って遊ぼう」が行われた。

これは毎年夏休みに子供たちに楽しんでもらおうと、松尾児童クラブ松澤秀明館長が企画、ボランティアスタッフとして「松尾サイエンス」に依頼し実施された。



初めに空気砲を披露。スモークマシーンで作った煙を箱の中に詰めて、カウントダウン。発射の合図とともに大きな煙の塊が一気に発射されると、その迫力に「わーすごい」「大きい」と歓声が上がった。発射された煙がやがてリングに変わると「輪っかになった」と興奮気味に声を上げていた。



この後は飛行機風作り。スタッフの三浦宏子さんの説明を聞きながら、紙を折ったりひもを結んだりした。紙テープの尻尾をつけて完成させると、早速広い講堂で少人数ずつ走って飛ばし合って楽しんだ。2年生の木下まひろさんは「煙が輪になって楽しかった。凧はちゃんとできるか心配だったけど丁寧教えてもらえて良かったです」と感想を発表した。



空気砲は、段ボールとガムテープを使って家庭で簡単に作れるということで、またみんなで楽しめたいと、クラブの職員は空いた時間を利用してどうやって作るのか指導を受けて作っていた。



スマートフォンから動画が見られます

猛暑でも！コロナ禍でも！ とにかく子供たちは元気！



松尾小学校の夏休みが明けて最初の週末明け22日、コロナ禍で地域との交流もままならない時期、園児らがどのように過ごしているか松尾東保育園（3歳以上児72人、1歳2歳未満児22人）を訪ねてみた。



この3年で保育現場は様変わりした。働いている保護者のための保育園ではあるものの、保護者の協力を得て、体調管理をしっかりと取っての登園としている。その際の相談も受け付けており、保護者が不安にならないように職員がフォローに当たっている。子供たちも、自分で気をつけられるようになってきていることもあって、園内感染を防ぐことができています。

この日の最高気温は32度。園庭に出ているだけで、強い日差しでじりじりと肌が焼ける。園児らは寒冷紗を使った暑さ日除けの下で、砂遊びをしたり、教室でブロック遊びをしたり、リズム室と呼ばれる広い室内で水鬼（鬼ごっこ）をして楽しんでいた。

この3年で保育現場は様変わりした。働いている保護者のための保育園ではあるものの、保護者の協力を得て、体調管理をしっかりと取っての登園としている。その際の相談も受け付けており、保護者が不安にならないように職員がフォローに当たっている。子供たちも、自分で気をつけられるようになってきていることもあって、園内感染を防ぐことができています。

夏祭りは日中子供たちだけで行われ、迎える時間に時間差で保護者参加という形をとった。これから行われる運動会についてもこの2年間は3歳以上児のみの開催であったが、今年度は保護者にも子供たちの成長を見てもらいたいと職員で検討しているところだ。壬生恵美園長は、「コロナ禍であり、ここ数年思うようにできないこともありますが、地域の方には、変わらずに声をかけていただいたり、可能な限り収容体験や遊びの場を提供して下さり感謝しております。松尾の地域の方の温かさや優しさが本当にありがたいです。」と話している。



プール遊びは、感染対策も、自分で気をつけられるようになってきていることもあって、園内感染を防ぐことができています。



を声高らかに歌った。松尾からは松尾コーラスとナズナフラウエンコールの美しい歌声を披露した。発表の最後は飯田カネト合唱団（唯一子供の団員がいる合唱団）が「合唱劇カネト」より劇中曲を熱唱した。

公民館コーラスグループ 発表会



7月3日飯田文化会館で第46回公民館コーラスグループ発表会が行われ、17グループが参加した。例年は2月に定例的に旧飯田市公民館で行われていたが、本年度は文化会館での発表会となった。

まず飯田市民館館長会と主事会の発表があり、下條啓市館長と亀井裕太郎主事が参加し「花は咲く」と「栄冠は君に輝く」の2曲

5月に旧ユニピアゴ飯田駅前跡地に「丘の上の結びスクエア」がオープンした。飯田市民館も吾妻町から移転し、2階、3階で運営している。(愛称 ムトスぶらざ)



明区 寺澤朝子さん



「この場所から人と人が出会い繋がっていくこと、地元の人から長く愛される場所になることを願っている」と寺澤さんは話した。

丘の上の結びスクエア



分館からは「年度はじめは新型コロナの警戒レベルが下がっていたからよかったが、今の状況では参加しにくい人もいると思うので、人数集めが大変」「競技数を絞るだけ絞ってあるので、集めるのはそれほど大変ではない」「やるのであれば、感染防止対策をしっかりとやってほしい」などの意見が上がった。今後実行委員会が協議の上、どのように開催するかを決定していく。

Cブロック情報交換会

7月2日、上村公民館でCブロック情報交換会が開催された。飯田市の公民館は5つのブロックに分かれており、松尾公民館は竜丘・下久堅・上村・南信濃の公民館とCブロックに属している。

他公民館の広報委員の生の声を聴き、持参した各公民館の広報誌を見て、今後「まつお新聞」作成の参考にできる点を多々習得することができた。

広報部会では「コロナ前とコロナ禍での広

報誌の差異」を主テーマとして5つの公民館の広報委員がそれぞれ取り組みや苦労している点等を発表し合った。コロナで公民館の行事が次々と中止となつている中、各公民館とも広報委員が知恵を出し合つて特集を組む等努力している姿勢が窺われた。



はんば亭前で

今こそ分館の底力を！ 分館役員研修会

参加した。講演テーマは「コロナ前の活動を振り返り、これからの活動を考える」。まず、下岡氏が現在勤める、今年5月にオープンした「丘の上の結びスクエア（ムトスぶらざ）」での仕事を紹介。男女共同参画、多文化交流、ムトス支援事業などに携わっており「公民館と市民活動は根っこが同じなので、連携して市民の皆さんの活動を応援していきたい」と話した。

次に、飯田市の地区別人口推移表を見ながら「松尾は最近10年で唯一人口が増えている。それだけ、外から見ると魅力がある地域」また、主事として関わった運動会を振り返り「3000人が最後まで帰らず参加している。そんな地域は他に無い。大変だったが、達成感はずいぶん。一体感が感じられて良かった」と話した。

下條公民館長は挨拶で「今年の運動会は、臨機応変に対応しながら行ってほしい」また「各地区の様子を知ることが出来て良かった」と話した。

運動会 がんばれ！がんばれ！

「個々の力を分館で一つにしよう！令和最初の運動会を」をスローガンに松尾地区市民運動会開催に向けて、8月23日、分館役員会が開かれた。

分館からは「年度はじめは新型コロナの警戒レベルが下がっていたからよかったが、今の状況では参加しにくい人もいると思うので、人数集めが大変」「競技数を絞るだけ絞ってあるので、集めるのはそれほど大変ではない」「やるのであれば、感染防止対策をしっかりとやってほしい」などの意見が上がった。今後実行委員会が協議の上、どのように開催するかを決定していく。

市長と語るまちづくり懇談会



7月4日松尾地区「市長と語るまちづくり懇談会」(前市政懇談会)が行われた。開会にあたり、鋤柄富男まちづくり委員

会長より、「コロナ禍からと消極的にならず、希薄になった地域コミュニティを再構築していきたい。まちづくり委員会の重点目標の達成のために精進したい。また日本一住みやすい街を松尾から始めていきたい」などの挨拶があった。

佐藤健市長は、「全国的にコロナ感染が拡大しつつある。特に小学生や未就学児が多いが、コロナを理由に中止が多かった活動の再開に向けて努力したい。」また「先日信州大学の新設候補地としてまちづくりをしっかりとしていきたいと中村宗一郎学長に伝えた」などと報告を兼ねて挨拶をした。

今回のテーマは「松尾地区の教育に関する将来像を描く」。はじめに「中学校の部活の地域移行について」で議論が交わされた。指導する教員がいなくという事で地域移行することが望ましいと平成30年文化庁から問題提起された。しかし、「地域移行の地域はどこを指すのか」「学校の部活から社会体育へ、その後も頑張ってきたが、そこ

に入れたい子供たちはどうするか」「指導者をどうやって見つけるのか。また指導者の育成はどうするか」など飯田市だけで解決できる問題ではないとの意見が数多く上がった。

続いて「飯田市、松尾地区と太陽学園とのかかわりについて」では、コロナ禍による不登校の増加や、学校の集団になじめない子供たちの居場所を作るために平成4年4月に開校した太陽学園(久井区)を話題に挙げた。「自分の居場所を見つけて、大人への信頼関係を取り戻せたらいいと思う」という荒木政吾理事長の思いが読み上げら

れると、「松尾地区でも何か地域でできることはないだろうか」「飯田市で支援してもらえないのか」などと意見が上がった。これに対し熊谷邦千加教育長は、「飯田市では、結いスクエアの中に個別支援施設を設置した。その他フリースクールが13団体ある。各団体連携して、何らかの支援をしていきたいと思ってる」と話した。

「老朽化したスポーツ施設について」では、ミニ体育館(昭和55年施工)をはじめ耐震工事がなされていない松尾地区の老朽化したスポーツ施設について、また、ほつ湯アップル近辺に武道館の建設を要望していることなどの意見が交わされた。飯田市教育委員会松

下徹参与は、「飯田市のには、飯田市武道館の固い床の改修、上郷柔剣道場を優先と考えている。昭和11年皇太子誕生を記念して建てられた講堂は、取り壊し計画もあったが存続し、児童センターとして利用している。歴史的な建造物でもあり、議論する必要がある。勤労者体育館は平成22年改修、運動場も改修済み。現在の設備を維持管理しながら計画的に、温泉施設も活用しながら進めていく」と方針を述べた。

懇談会には、まちづくり委員会、小中PTA会長はじめ青少年育成会長、区長、分館長、公民館委員長などが参集され、コロナ禍で短い時間ではあったが熱い議論が交わされた。

7月21日、みさとや交差点の信号機が稼働し始めた。県道新井伊那八幡(停)

稼働初日は、まだ信号に慣れていないためか、青信号で一時停止をする自動車が多く見られた。

接触事故が多発していたこの交差点だったが、交差点改良に伴い事故が減ることを地元住民は強く望んでいる。



みさとや交差点完成

線「みさとや交差点」の改良促進については、松尾まちづくり委員会地域振興部が、県と市の担当者と協力して促進活動を行ってきた。

松流神輿、来年こそは!

9月10日鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭奉納煙火が行われた。

新型コロナウイルス警戒レベル6のために、計画されていた神輿のきおいは中止となった。

年番区の新井区では、2週間前より神輿会を中心に、新井防災コミュニティセンターを行燈や幣束で飾り付け、大人と子供神輿2基を組み立てた。年番区委員は、前日の午後4時半から小学校グラウンドで奉納

煙火の会場設営をし当日を迎えた。

当日は早朝より神事が鳩ヶ嶺八幡宮で行われ、夕方からの奉納煙火となった。

きおいは中止となったが、新井区神輿会の役員が会員に声をかけ午後コミュニティセンターにて神輿を

囲んで記念撮影。感染対策をしたうえで、神輿に肩を入れて担ぎ上げて、2年ぶりの感触を確かめた。



城の文字が輝く新神輿



城の新しい神輿が鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭に合わせ、区民に披露された。数年前から区役員と壮年会を中心に神輿の新調を計画し、今年4月のコミュニティ助成事業の助成金を受けて、群馬県前橋市の榊日本木工振興に発注した。

8月27日納品された神輿は勇壮な二尺二寸の総漆塗。本体には重厚な彫刻と金の装飾が施されている。頂には通常の鳳凰ではなく、あえて玉ねぎ型の擬宝珠が採用され、あはれ神輿の様相を見せる。「入魂式」が9月10日午後、鳩ヶ嶺八幡宮本殿にて執り行われ、仲村武志区長、城田正樹壮年会長をはじめとする壮年会役員及び歴代の壮年会長ほか38人が参列した。

きおいはできず、翌11日トラックに乗せて区内を回る形でお披露目となったが、行く先々で区民の拍手と歓声に迎えられた。

明区の書道作家 字遊人さん



書道作家の字遊人龍月さん(明区)が、「第23回日本フランス現代美術展」で入選した。同展は、「美術による相互交流を通じて世界平和に貢献する」をテ

松尾図書館

(公民館2階)
開館日 水曜 午後1~5時
土曜 午前10~午後5時
日曜 午後1~5時
本のリクエストも受けつけています。

マに掲げる公募展。

字遊人さんは、文字に目や口をつけてアレンジし、鮮やかな色彩で仕上げる「字顔」に取り組んでおり、創作の中心となっている。

鳩ヶ嶺八幡宮ライトアップに中学生のデザインを!



この企画に参加する生徒8人は事前学習として、8月3日に伊原義雄宮司から鳩ヶ嶺八幡宮の歴史や特徴などを現地学び、8月5日に有限会社サーチャーで会社見学とともにプロジェクトセッションマッピングの方法や注意点などの説明を受けた。

参加した中学生からは「八幡宮の特徴が伝わるデザインを表現したい」と当日に向けてイメージを膨らませていた。ライトアップイベントは11月5日から19日まで行われる予定。

今年も鳩ヶ嶺八幡宮で行われるライトアップイベントに向け、中学生が動き出している。今年の新たな取り組みとして、有限会社サーチャーの協力で実施しているプロジェクトセッションマッピングのデザインの一部を、緑ヶ丘中学校の美術

- これからの行事予定
- 10月23日 松尾地区市民運動会
 - 10月30日 松尾地区還暦の会
 - 11月6日 古き松尾を巡る ぼちぼちさんぽ
 - 11月26日 松尾一周の歌より「文化委員会企画」
 - 11月27日 松尾地区学習会
 - 松尾の古墳を巡る【総務企画委員会】
 - 松尾小学校150周年記念事業
 - 松尾郷土芸能まつり